「建築基準適合判定資格者」合格体験記

所属　　財産管理課
職・氏名　主任建築技師　及川　美帆

1　受検の動機・経緯

建築基準適合判定資格者検定を受検した動機は、建築確認等の業務上必要な資格だからです。受検資格として、一級建築士を取得し建築確認等の実務経験が２年以上必要となります。私は、実務経験は満たしていたため、一級建築士合格の次年度から直ぐに受検を始め、３回目の受検で合格することができました。

2　受検勉強の進め方

建築基準適合判定資格者検定は、１０時から１６時までの長時間であり、午前は選択肢による問題、午後は筆記による記述問題で集中力と体力が非常に必要となります。特に午後の記述問題では、建築基準法でどこが誤っているのかを論述しなくてはならず時間配分が重要となります。日頃の勉強方法は、問題を多く解き理解することも大切ですが、時間配分と書くスピードの練習も行いました。

3　勉強と仕事との両立、職場の理解について

勉強時間を確保するため、空いている時間や仕事から帰った後に勉強しますが、勉強するための休みが取れる職場環境こそが大切だと思います。

4　検定当日の心構え、留意点

検定当日は、周囲の受検者が勉強できる人ばかりに見えて非常に緊張し、検定が始まると分からない問題ばかりで余計焦りましたが、自分が勉強して来た過程を思い出し、最後まで諦めないよう心掛けました。

5　県職員採用試験受験者へのアドバイス

業務に必要で受検した資格ですが、合格し資格を取得したことで自分自身のスキルアップに繋がったと思います。資格取得も含めて多くの先輩から学ぶことが多い職場だと思いますので、今回の合格体験記が県職員採用試験を受験される皆様にとって、少しでも参考になれば幸いです。

「建築基準適合判定資格者」合格体験記

所属　　営繕課
職・氏名　専門建築技師　小林　信子

1　受検の動機・経緯

「技術力を身に付けるためには、まずは資格取得から」

一級建築士取得後、公務員という仕事柄、設計事務所や施工者の方々と対等に話すためにはやはり必要な資格と思い、頑張ろうと思いました。

2　受検勉強の進め方

【考査 A】

まずは、法規の線引きから始めました。私は、この「線引き」作業が好きだったので、「線引き」をやりながら、徐々に「やる気」を上げていきました。この「やる気」を維持しながら、平日に問題を解くようにしました。なるべく 1 日で各年度の問題 17 問を解き、答え合わせでは、解説文と条文を確認しながら選択肢ごとにきっちり読むようにしました。

【考査 B】

土曜、日曜日に集中して問題に取り組みました。初め、テキストにある解答と条文を確認しながら書く練習をしました。当然のことながら時間が足りず、「字は多少汚くていい」とか「一字一句解答どおり書かなくていい」と職場の方々からアドバイスをもらい、時間を決め、「書き切る」練習をしました。

3　勉強と仕事との両立、職場の理解について

勉強時間の確保は難しく、帰宅後、「やっと自分の時間だ」という時、睡魔が襲う毎日でした。これは「体力がない」ことが原因と考え、勉強と並行して体力づくりも始めました。だんだん生活のリズムができてきて、夜、少しだけ勉強ができるようになりました。

平日、勉強ができるようになると、土日の勉強ノルマをこなせるようになりました。

また、検定前は集中的に勉強するため、まとまった休暇をいただき、自分の苦手な問題を解くようにしました。

自分の要領の悪さに落ち込むこともありますが、職場の方々から色々な面で御配慮いただいたおかげで、マイペースで取り組むことができたと思います。

4　検定当日の心構え、留意点

最後まで「書き切る」、「諦めない」という気持ちを忘れずに挑むことが大切だと思います。

「平常心」を忘れない。初見の問題に慌てることなく「いつも通り」を心掛けると良いと思います。

５　県職員採用試験受験者へのアドバイス

仕事をしながら資格を取得できたことは、周囲の方々のサポートがあったからこそだと思います。

土木部では、研修等で合格した方から勉強のコツを聞く機会があったり、専門機関の模擬試験を受けることができたり、資格取得へのサポートが充実しています。

今後は、資格取得のため頑張っている職員をサポートできるよう、技術力の向上に努めたいと思います。

「建築基準適合判定資格者」合格体験記

所属　　会津若松建設事務所　建築住宅課
職・氏名　主任建築技師　小久保　拓哉

1　受検の動機・経緯

〇令和３年度に一級建築士試験に合格し、速やかに建築基準適合判定資格者を取得したいと思ったため、令和４年度の受検を決意しました。

2　受検勉強の進め方

〇検定に関する情報が少ない中で、学習する前に書籍やインターネット情報等を活用し、対策方法を考えました。

〇令和４年５月上旬から約３か月間、短期間で集中して学習しました。

〇使用したテキストは、建築基準適合判定資格者の手引き及び最新版の法令集です。

〇考査Ａについては、過去問１０カ年分を設問（単元）ごとに並び替えた「自作の問題集」を作成し、完答できるまで（最低３回）解きました。

〇考査Ｂについては、過去問５年分を１・２回目まではトレースし、内容の理解・定型文の暗記に努め、その後は３回程度自力で解きました。自力で解く際には、解答時間を計りながら、時間短縮を図りました。

3　勉強と仕事との両立、職場の理解について

〇検定直前期は、職場内で業務の調整・協力をいただきながら休暇を取得し、勉強に集中しました。

4　検定当日の心構え、留意点

〇考査Ａ（択一式）は満点を狙いました。

〇考査Ｂ（記述式）は時間との勝負となるため、計画１～３の解答する順番を予め決め、確実に得点できそうな設問から効率良く解答するようにしました。
（例：計画３→計画１→計画２）

〇考査Ｂは時間短縮のため根拠規定に記載する「第」の略字「㋐」を使用しました。また、重複する法令条項の記載を省略しました。

5　県職員採用試験受験者へのアドバイス

〇建築基準適合判定資格者（建築主事）は、福島県が建築基準法に基づく確認・検査を行う上で必須の資格です。建築基準適合判定資格者検定を受検するには、まず一級建築士の取得が必要です。一級建築士試験の受験要件が緩和され、大学卒業者であれば実務経験なしで受験可能となっていますので、一級建築士試験に向けた早期学習をお勧めします。

「建築基準適合判定資格者」試験合格体験記

所属　　建築住宅課
職・氏名　　副主任建築技師　西田　修

1　受験の動機・経緯

○業務上必要でいずれは取得しなければいけない資格であるため、勉強するなら早い方が良いと思い勉強を始めました。

○１回目の受験時には、業務が多忙だったこともあり、なかなか勉強ができなかったため、回答を書き切ることができず、ランクⅡという結果でした。

○２回目は、書き切れなかった前回の反省を活かし、できる限り回答を省略することを心がけて勉強した結果、書き切ることができ、合格することができました。

2　試験勉強の進め方

○試験の３ヶ月半前(GW 開け)頃から独学で勉強を始めました。

○メジャーな資格ではなく市販の参考書があまりないため、建築基準適合判定資格者の手引き(過去問題)や模擬試験の問題を何度も解くことで、出題パターンやパターンごとの回答方法について理解を深めました。

○考査Ａは、毎年の出題項目がほとんど同じであるため、同じ設問(No)の問題を８年分(R4～H27)まとめて解くことを繰り返すことで効率的に勉強しました。

○考査Ｂは、模範解答を見て、自分なりの省略方法を考えながら過去８年分の問題を２周ほど書き写しました。その後、模範解答を見ないで解ける問題は自力で解き、解けない問題は模範解答を見た後に法令集にマーカーや付箋を貼る等をし、次には自力で解けるような工夫をしながら過去問題及び模擬試験の問題を３周ほど解きました。

3　勉強と仕事との両立、職場の理解について

○仕事と勉強の両立は肉体的にも精神的にもきつくなってくるため、やるときは集中してやる、やらないときはやらないとメリハリをつけて勉強をしました。

4　試験当日の心構え、留意点

○一級建築士を受験した際に法規で焦ってしまい、あまり得点が取れなかった経験があったため、まずは焦らないことを意識して挑みました。

○時間との勝負となるため、解ける問題や得意な問題から解く等、事前に問題を解く順番を決めておきました。(考査Ａ：No.5～17→No.1～4、考査Ｂ：計画 3→計画 1→計画 2)

5　県職員採用試験受験者へのアドバイス

○資格を取得しなくても仕事はできますが、勉強し資格を取得したことで自分自身のスキルアップにつながり、仕事の効率化にもつながったと思います。

○福島県では、一級建築士や建築基準適合判定資格者に合格するための資格学校の受講費や模擬試験の受験費、教材購入費の一部負担等のサポートが充実しておりますので、いつかは取得したいと考えている方は県職員採用試験の受験を検討してみても良いかと思います。